

変なところは、ヒッグス粒子の生成する確率は陽子・陽子衝突の 40 億回に 1 回の程度であり、さらに生成ヒッグス粒子はすぐに他の素粒子に変わってしまうことでまさに天文学的な回数の実験が必要であり、研究者達は結論を出すにはあくまでも慎重のようである。

宇宙の起源にまで遡って議論出来るような素粒子実験というのは非常に大型の加速器を必要

とすることが良く分かった。しかし、偽物の信号を捉えた可能性を排除するために、更なる大変な再確認の実験が予定されていることなど、筆者のような物性の研究者からはちょっと想像もつかない。フロアからも様々な質問、意見が出て中身は難解ではあったが、大変良かったと思う。

(大嶋 記)

平成 25 年度研究会の予定

開催日	研究会名	会場
平成 25 年 4 月 19 日 (金)	第 50 回放射線科学研究会	住友クラブ
平成 25 年 5 月 17 日 (金)	第 53 回 UV / EB 研究会	住友クラブ
平成 25 年 7 月 19 日 (金)	第 51 回放射線科学研究会	住友クラブ
平成 25 年 9 月 6 日 (金)	第 54 回 UV / EB 研究会	サンエイビル 3 階 電子科学研究所 講義室
平成 25 年 10 月 25 日 (金)	第 52 回放射線科学研究会	サンエイビル 3 階 電子科学研究所 講義室
平成 25 年 11 月 15 日 (金)	第 55 回 UV / EB 研究会	住友クラブ
平成 26 年 1 月 (未 定)	ONSA25 周年記念シンポジウム	未定